

ミュージアムを支える人々 People supporting the museum

01

ふじのくに地球環境史ミュージアムは、県の事務職員や研究員以外にも多くの関係者によって運営されています。このコーナーでは、インタビューを通じてミュージアムを支える人々の仕事や、その素顔を紹介していきます。



NPO法人静岡県自然史博物館ネットワーク副理事長

み やけ たかし
三宅 隆

1946年香川県生まれ東京育ち。日本大学農獣医学部獣医学科卒業後、1969年から開館前の静岡市立日本平動物園に獣医師として勤務。約30年間を動物園で過ごし、現在はNPO法人静岡県自然史博物館ネットワークで副理事長を務めている。

『静岡県に県立自然史博物館を』

Q1 三宅先生の御経歴・専門分野についてお聞かせください。

A. 静岡市立日本平動物園に獣医師として勤務し、定年後はNPO静岡県自然史博物館ネットワークで、県立自然史博物館の設立を県に働きかけてきました。専門は獣医師ですが、野生動物にも興味があり、フィールド調査や野鳥観察を趣味として活動しています。最近では外来生物（アライグマやハリネズミ）対策や、静岡県RDB（レッドデータブック）の調査で、コウモリにはまっています。

Q. 約20年に渡り活動を続けられているNPOですが、どのような取り組みをされていますか。

A. 2003年から、自然学習資料の保存事業に着手しました。そして、三島から清水へ事務所を移転後、資料収集及び保管、登録作業を本格的に実施しはじめました。その後、2014年に、開館前のミュージアムへ活動拠点を移しました。現在は、県内の自然史に関わる調査、研究やミュージアムの運営に協力するため、バックヤードで活動を行っています。さらに、県研究員の専門外の分野において、NPOの専門家が、県民の要望への対応や現地調査などを実施し、協力しています。

Q. 今後やっていきたいこと、ミュージアムの今後について、展望をお聞かせください。

A. 開館から1年半経ちましたが、もう少し来館者の立場に立って、来館者が何を期待し、何をしたいかをよく見極め検討して、柔軟に展示や教育に活かすべきではないかと考えます。20年余の我々NPOの悲願であった博物館。県民に愛され親しまれ、百年後までずっと発展してほしいものです。

調査のため現地へ出向いたり、館内イベントの運営を行ったりするなど、第一線で活躍されている三宅先生。インタビューを通し、穏やかな口調からもミュージアムへの熱い思いを感じ取ることができました。——— 次回は、NPO法人静岡県自然史博物館ネットワークの横山謙二さんです。

アクセス

〒422-8017 静岡県静岡市駿河区大谷5762(旧 静岡南高校)

🚗 自家用車で越しの場合(ナビでお越しの際は、住所で検索してください)

- ・ 東名高速道路静岡ICから15分
- ・ 小幡岡駅から20分
- ・ 駐車場 無料(200台)

🚏 公共交通機関でお越しの場合

- ・ 静岡駅北口バスターミナル
- 【8-B乗り場から美和バス線「ふじのくに地球環境史ミュージアム」行き(約30分)終点下車】

ふじのくに地球環境史ミュージアム NEWS LETTER

発行：ふじのくに地球環境史ミュージアム 企画総務課

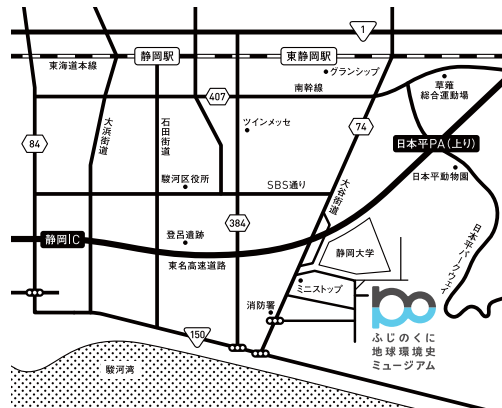
[TEL] 054-260-7111 [FAX] 054-238-5870

[E-mail] info@fujimu100.jp

[ホームページ] www.fujimu100.jp

📧 https://twitter.com/fujinokuni_NEM

📘 https://www.facebook.com/fujinokuninaturemuseum



百年後の静岡が豊かであるために

NEWS LETTER



ふじのくに地球環境史ミュージアム ニュースレター

□ミュージアムの夏 □ミュージアム連続講座・企画展 □ミュージアムダイアリー □ミュージアムを支える人々

[vol. 007]



来館者数10万人達成記念セレモニー (静岡市立大谷小学校2年生の皆さん)

ミュージアムの夏

少し前の話になりますが、6月23日に、開館からの来館者数が10万人を突破しました。昨年3月26日に開館してから1年3か月余、当館にとって記念すべき日となりました。関係の皆様には、これまでの惜しみない御支援に感謝するとともに、今後も密接な連携の下で、質の高いサービスを提供していただけるよう、御協力をお願い致します。

さて、開館2年目の今年は、中国から輸入されたコンテナに混入し、国内で初めて発見された特定外来生物「ヒアリ」が夏頃から一気に注目を浴び、連日メディアで取り上げられました。その結果、外来生物に関する国内の研究者の一人であり、ヒアリにさされた経験がある、当館の岸本年郎准教授が一躍時の人となりました。同時に「ふじのくに地球環境史ミュージアム」の名前が全国に知れ渡ることとなりました。

開館後、認知度の向上が急務となっていた当館にとっては、まさに追い風となりました。当館では、同准教授による緊急報告会やヒアリの標本の展示を行いました。夏休みの後半には、ヒアリがきっかけで当館を知り、来館されるお客様で賑わうようになり、中にははるばる他県からお越しになる方も見受けられたほどでした。イベント盛り沢山で賑わったミュージアムの夏は、同時に「ヒアリの夏」でもありました。

12月2日からは、有料企画展「先史時代の輝き—旧石器・縄文時代の人と環境—」が始まります。静岡の各地で出土した先史時代の遺物を一堂に展示しますので、皆様、是非お越しください。